

第22回 山梨県道路交通円滑化・安全委員会 議事内容

日時:令和3年3月24日(水)9:30~11:30

場所:山梨県立図書館(多目的ホール)

■委員会出席者

早稲田大学 理工学術院

創造理工学部社会環境工学科 教授

(一社)山梨県タクシー協会会長

(一社)山梨県バス協会専務理事

(一財)山梨県交通安全協会専務理事

(一社)日本自動車連盟山梨支部事務所長

山梨経済同友会代表幹事

甲府商工会議所卸売商業部会 部会長

中日本高速道路(株)八王子支社

総務企画部 企画調整課 担当課長

高速道路事業部 交通管制課 課長

甲府保全・サービスセンター所長

山梨県県道整備部道路整備課長

山梨県県土整備部道路管理課長

山梨県警察本部交通部交通規制課長

国土交通省関東運輸局山梨運輸支局首席運輸企画専門官

国土交通省 関東地方整備局甲府河川国道事務所長

国土交通省関東地方整備局 道路部 道路計画第二課

佐々木 邦明(委員長)

雨宮 正英

(代理:事務局長 小林実)

篠原 勇

輿石 靖

野村 昌志

(代理:事業係長 丹澤 英之)

入倉 要

有野 義人

恩田 雅也

西田 匡志

坂下 淳

(代理:工務担当課長 高木 宗男)

秋山 久

(代理:道路企画監 宮下 喜樹)

風間 辰也

内藤 智

(代理:交通規制課係長 和田 康平)

和田 喜則

濱谷 健太

(オブザーバー)

■議事内容

<渋滞対策>

- ①委員会の検討経緯と今回の論点
- ②短期対策を当面未実施とする箇所の検討状況
- ③ピンポイント渋滞対策の検討状況
- ④バスデータの活用方法の検討
- ⑤コロナ情勢に伴う交通状況分析

<交通安全対策>

- ①本委員会の論点
- ②第 21 回委員会の振り返り
- ③幹線道路の事故対策(事故ゼロプラン)について
- ④近年の交通事故課題
- ⑤今後のスケジュール

■審議結果

●渋滞対策関係

<決定事項>

- ・ 短期対策を当面未実施とする箇所の検討について、3 箇所を経過観察とすることで、了承を得た。

<議事内容>

【質問・意見】

- ・ ピンポイント渋滞対策の検討状況について、東恋路交差点や(仮称)船津交差点は実施困難とされている。感応式信号の移設や横断歩道の移設等については、用地買収でないので可能ではないか。

【回答】

- ・ ピンポイント渋滞対策は停止線の前出し等、工事を伴わない対策を想定している。大きな費用をかけずに最小限に効果を発揮できる対策と考えると、移設物が発生する対策は費用がかかりすぎると評価した。
- ・ 今後、ピンポイント渋滞対策を検討する上で、費用も含めて検討する。

【委員長】

- ・ 対策可能な 5 箇所も状況を見て効果等得られる場合、今後、実施困難の 5 箇所も可能な範囲で検討してほしい。

【事務局回答】

- ・ 了承した。

【質問・意見】

- ・ バスデータの分析について、7 月にシステムの改修を行う。現在バスデータを提供できていなかった郡内のバスデータも提供できるようになるので、活用の幅が広がると思う。

【委員長】

- ・ 事務局の方でも新しくなる場所の情報等を入手し、こういった形で活用可能かを次年度以降に検討してほ

しい。

【事務局回答】

- ・ 了解した。

【質問・意見】

- ・ 現在、交差点は、朝日3丁目交差点南側にあるガード下の工事が終了し、令和3年3月25日に供用再開される。しかし隣の朝日町ガード北交差点のガード下も次に工事すると聞いている。
- ・ 工事の時期や車の迂回方法等、情報を教えてほしい。

【事務局回答】

- ・ 本事業は、市の区画整理事業と聞いているが、詳細な情報は聞いていない。

【委員長】

- ・ 事業による影響をバスデータやETC2.0データで解析してほしい。

【委員長】

- ・ コロナ情勢に伴う交通状況分析について、大型車の交通量の変化が小型車と異なることについて、大型車の内訳がトラックなのかバスなのかわかるでしょうか？物流・観光は異なるため、詳しく分析を行ってほしい。

【事務局回答】

- ・ 使用データがトラフィックカウンターであるため、大型車の車種分類が不明である。

【委員長】

- ・ ETC2.0の外部活用について、外部活用できるようになるということによいのか。

【事務局回答】

- ・ 確認しお知らせします。

【委員長】

- ・ 本委員会では短期対策を当面未実施とする箇所の検討について、3交差点は経過観察とすること、で、了承。
- ・ ピンポイント渋滞対策については、いただいた意見を今後の検討に反映させること。

●交通安全対策関係

<決定事項>

- ・ 第2次事故ゼロプラン A 群事故データに基づく選定結果を提示し、了承された。
- ・ B 群(地域の声・要望)の選定方法を提案し、了承された。
- ・ 選定された事故危険区間について今後の実施計画を提案し、了承された。

<議事内容>

【質問・意見】

- ・ 第2次事故ゼロプランは何年で実施するのか。また、新たな事故危険区間は積み残し区間も含めて 319 区間で良いか。
- ・ 死者数は”30 日死者数”についても着目すべき。

【事務局回答】

- ・ 新たな事故危険区間 A 群は積み残し区間も含み 319 区間となっている。また、第2次事故ゼロプランは、交通技術の発展、高齢化社会などを踏まえて進めていく。

【委員長】

- ・ 第1次事故ゼロプランの取組みを開始してから死傷事故件数は6割削減している。第1次事故プランの総括についてもっとアピールすべき。
- ・ 効果の検証について、充分に対策効果が現れなかった対策の評価も、重要な知見となる。
- ・ 環境の変化をモニタリングしながら第2次事故ゼロプランを進めること。
- ・ 地域によって事故の特性(観光客、住民)が異なることが考えられる。山中湖 IC の分析は、データを深掘りすることで運転者特性、事故発生の危険性について検証できる可能性がある。



第22回委員会の実施状況